

大学卒業者の入社3年以内の離職率は32%に及び、4年連続で3割を超えたという報道を目にした。以前、高校に勤務していたときに、高校生の就職指導に携わった。同時に、高校を卒業した卒業生たちは、就職した後、うまくやっているのだろうか。リアリティショックなどはないのだろうかと考えた。

そこで、就職後3年以内の離職率を調べた。大卒者と同様に約3割だった。この30%をどう考えればよいのか。今の時代、仕事をやめて違う職業に就くことがわるいことだとは一概には言えない。問題は、離職の理由と離職した後何をしているかということである。様々な角度から考えても30%は多いと考えてしまうのだが、どうだろうか。

目の前に与えられている仕事に、愚痴や不平不満を言わず、決して手を抜いたり投げ出したりせず、一心不乱・無我夢中に打ち込んでいく。そういう姿勢を何年も続けていった先に、成功や幸運があった。

ある方の言葉である。「どんな20代、30代がいるかでその国の将来は決まる」という人もいる。松下幸之助の言葉には、次のものがある。

若いひたむきなエネルギーが時代を動かす。物事を成し遂げるのはひたむきなエネルギーである。

教育の世界に置き換えてみる。「どんな20代、30代の教員がいるかでその国の教育は決まる」となるか。さらに置き換えてみる。「どんな20代、30代の野田中学校の教員がいるかで野田中学校の教育は決まる」となる。

一理あるように思える。本校には、20代の教員が4名いる。いずれも学級担任をしている。そのうちの3名は、初めての担任である。そのうちの2名は、4月から野田中学校に勤務している。不安であろうから、教育係をつけた。メンターであり、コーチである。隣のクラスの担任であり、職員室の席も隣である。

隣なので、すぐに何でも聞ける。教育係の方も、教えながら共に成長できるはずである。若者に教えるのだから、自分がちゃんとしなければならぬ。教育係をお願いした2名の先生は、私が若者を頼むと話をしたときに、何か意気を感じてくれたように思う。それがうれしかった。実際、よくやってくれている。

野田中学校の20代カルテットには、あまり先のことなど考えずに、ただひたむきに取り組んでほしい。20代は、人生においては、必死になる、必死になれるときが必要である。野田中学校の教育は、20代の4人で決まると考えれば、期待もするし応援もするのは当然である。まずは、夏休みまで、突っ走ってほしい。